

優秀賞 神奈川県 石井 学 様 (50代)

私は末期腎不全の障害者です。腎臓機能の障害を補うための移植ができないため、人工透析にて生き永らえています。そのうえ、右耳の聴力が全くなくなってしまい、片耳でしか聞き取ることができません。

およそ3年前に障害者になるまでは30年以上正社員で就労していましたが、現在は契約社員として細々と働き、所得が半分以下になってしまいました。薄給だけでは妻と二人の生活が火の車なので、障害年金に生活の大部分を担っていただいています。腎臓と聴力の障害ですので、外見は普通に見えます。生活苦のため透析治療時以外ではフルタイムで働きたいのですが、この身体ではなかなか条件に見合う雇用先を見つけるのは困難であり皆無に等しいです。そういう現実において、言わば生活を救ってもらっている年金には感謝しかありません。率直に心より「ありがとう」と思っています。

母も障害者でした。緑内障の手術に失敗し両目とも視力が無くなってしまいました。照明が点いているかもわからなくなり、視覚障害者として人生の大半を過ごすことを余儀なくされました。そんな母が生前、「障害年金をいただいているので普通と変わらない生活を送れていることは本当にありがたい」と言っていました。いわば年金システムに向けての感謝でした。母は目が見えなくても、驚くほどポジティブな思考と言動でした。視力がなくなってからも息子2人を成人まで育ててくれました。

3年ほど前に障害者になった私も、ようやく母の「ありがたい」という言葉の真意が、理解・共感できるようになりました。それは母が受給していた年金によって、母も子供の私達も生活・成長できたと言っても過言ではないからです。私も弟も母の年金にお世話になっていたんだなとしみじみ思います。

今の私は、飲食など生活制限はありますが、透析のおかげで日常生活は自力で行えています。聴力はおよそ半分ですが、視力は問題ありません。亡き母のように何事にも悲観せず前向きに受け入れていこうと思います。50代の今、これから先どれくらい生きられるかわかりませんが、母の分もいろいろなものをまだまだたくさん見ていきたいと思います。

最後になりますが、二点気になることがあります。一点は年金の不正受給についてです。

年金の種類を問わず、数件の該当記事を読んでとても悲しく寂しい気持ちになりました。私や母のように年金で人生を助けていただき、日常生活を送れている者たちからすると、不正受給のような愚行は信じられません。決してやってはいけないことです。不正に手を染める前に、今一度、年金のもつ目的・意義について考えてほしいと思います。不正受給で得るお金は犯罪で得るお金と認識して、思い留めてもらいたいです。

本当に年金を必要として生きている人のことを考えてほしいと痛感します。

もう一点は年金未納についてです。私自身、若輩の時には年金システムについて全く知識がなく、単に給与から控除されていたくらいの認識でしたが、今になって、年金は世代と世代の支え合いであるという深いありがたい制度ではないのかなと実感します。厚生年金保険に長い期間加入していたことで恩恵に与り、本当に感謝しています。母と私は障害者になったからこそ、公的年金制度のありがたみを身に染みて感じています。